コープさっぽろ
コープさっぽろ経営企画室
札幌市西区発寒11条5丁目10-1 〒063-8501
TEL.011-671-6620／FAX.011-671-5752
http://www.coop-sapporo.or.jp/

コープさっぽろの「マイナスCO_2オペレーション［二酸化炭素削減活動］」
CO_2削減への取組を通して、環境に関する理解を深めエコ活動を推奨、
エコロジー（環境保全）とエコノミー（経済活動）の両立の実現を目指しています。

COOP SAPPORO CSR REPORT 2015

コープさっぽろCSRレポート2015

コープさっぽろ

COOP SAPPORO CSR REPORT 2015

コープさっぽろCSRレポート2015

編集方針

コープさっぽろは、2005年から「環境・社会貢献報告書」の発行を始めました。2007年からはコープさっぽろの社会的責任（Corporate Social Responsibility: CSR）の視点から活動を報告する「CSRレポート」にあらため、多様なステークホルダーの皆さまの関心に応える情報開示に努めてきました。

コープさっぽろのCSR活動は、「事業」と「組合員活動」の両面から成り立っています。報告にあたっては、コープさっぽろの基本姿勢に則して推進している日々の活動の方針や内容を、その進捗状況とともに報告することを基本としています。持続可能な社会の実現に向けて、コープさっぽろが果たすべき役割は何か、そしてどのような取組を行っているのか、活動の一部ではありますが皆さまにお伝えできれば幸いです。

●報告対象期間

2014年度の主な活動を中心にまとめていますが、補足的に当該年度以前の情報、2015年度以降の継続的な活動や将来の目標も報告しています。また、事業概要は2015年3月20日現在のものです。

●ホームページでの情報公開について

コープさっぽろでは、情報の開示にあたり、本レポートのほかにホームページを活用しています。ホームページには本レポートの記載内容に加え、2014年度事業報告、損益状況などのより詳細な情報を掲載しています。（当該情報に関するホームページの公開は、2015年6月を予定しています）

CSRレポート掲載URL
http:// www.coop-sapporo.or.jp

●発行年月および次回発行予定
2015年5月発行。
次回は2016年5月の発行を予定しています。

CSRレポートに関するお問合せ先
生活協同組合
コープさっぽろ経営企画室
〒063-8501
札幌市西区発寒11条5丁目10-1
TEL. 011-671-6620
FAX. 011-671-5752

CONTENTS

ごあいさつ …… 01
コープさっぽろの事業と活動 …… 02

巻頭特集

コープさっぽろの挑戦
地域社会と雇用 …… 03

2014年度活動報告

人と食をつなぐ事業の輪 …… 12
人と人をつなぐ事業の輪 …… 16
人と未来をつなぐ事業の輪 …… 20

2014年度環境活動報告

環境活動トピックス …… 22
環境データ報告 …… 24
環境に関する受賞 …… 27

コープさっぽろの組織概要

コープさっぽろの基本姿勢・環境理念と環境方針 …… 28
沿革 …… 29
基本情報 …… 30
組合員動態 …… 31
事業所数と形態 …… 32
第三者意見 …… 33

ごあいさつ

コープさっぽろ理事長
大見英明

生協だからこそできる、コープさっぽろでなければできない事業を展開し、組合員さんの生活の質向上に貢献すること。それは、1965年の創立以来変わらない使命です。北海道の経済に貢献し、社会問題の解決に取組むために、私たちは食の分野で積極的に事業を推進しています。

2014年は総世帯数260万世帯、人口540万人の北海道で、コープさっぽろの組合員数は今年150万人の規模へ到達することができました。1組合員を1世帯と考えると、道内に150万世帯の組合員さんがいることになります。

一方で消費税の引き上げや大手ディスカウンターの進出を受けて、競合環境の厳しさが増しています。「やはり生協は他の企業と違うね」と感じてもらわなければ生協の存在意義は薄れてしまいます。生協が組合員さんから信頼される真のパートナーとなるためには、対話を継続し、組合員さんから頂いたご意見を反映させながらさらに成長していく必要があると考えています。

「食」の分野では、全道で、社会的に意義のあるものにしていくことを目指して14年度は「体験」をキーワードに内容をレベルアップしてきました。例えば、糖尿病などを患い、カロリーなど制限をうけた毎日の食事作りに苦労されている組合員さんには、管理栄養士が監修したメニューをそろえてお届けする事業を始めました。また、ユネスコの世界無形文化遺産となった和食を家庭でつくることを推進するために、調理好きの組合員さんを増やして魚食文化を継承することを目的に、札幌中央卸売市場と連携した「魚の調理教室」を始めました。世の中の流れと逆行しつつも、本当に価値のあるものを継承していくことも私たちの役割のひとつと認識しています。

安全・安心な地域づくりの分野では、宅配事業を中心に、週1回の訪問時に日常の配達業務で郵便物が溜まっているなどの異変に職員が気づいた際、自治体に連絡することで孤独死の未然防止と早期発見を図る「高齢者見守り協定」も道内112市町村にまで拡げています。そのほかにも、スポーツジムがない地方でもご高齢の方々に健康づくりをしていただき、健康寿命を延ばすことを目的に、NPO法人と北翔大学と連携して「まる元運動教室」もスタートさせました。そして商品を積み込んだ移動販売車73台が道内の買物困難地域でライフラインとしての役割を果たしています。

環境とエネルギーの分野では、「クリーンなエネルギーを使いたい」というニーズにお応えして、自宅に太陽光発電設備を取付けている組合員さんからの電力購入を開始しました。15年には電力小売全面自由化をにらみ、電力の仕入と小売を担う新会社も設立し、原発に頼らない社会を目指していきます。また宅配トドック利用者を対象に古着を回収するサービスも開始し、環境負荷を軽減する取組も進めています。

地域経済を左右するのは何よりも雇用の増減（就業者数の増減）です。本レポート巻頭では、この数年間、コープさっぽろが取組んできた社会給食事業など新規事業による雇用創出や、障がい者雇用率4%を目指してさまざまな方の雇用機会提供に取組んでいることをご紹介しています。

2015年、コープさっぽろは創立50周年を迎えます。創立以来の精神を受け継ぎ、150万人超の組合員さんの信頼にお応えしながら、事業を通じて地域が持つ課題の解決に向けて具体的なアプローチを続けてまいります。今後とも皆さまのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

コープさっぽろの事業と活動

生活協同組合とは、より豊かなくらしの実現のため、
それぞれの持つ力を寄せ合い、
一つの意思の下に活動する組織です。
コープさっぽろはその精神のもと、
組合員に支えられさまざまな事業や活動を続け、
'15年7月に創立50周年を迎えます。
私たちの活動の主役は組合員であり、
私たちの事業は、地域に生まれた
さまざまな問題を考え、より良い食、社会、
そして未来へ「つなぐ」役割を果たします。
その事業や活動をご紹介します。

人と食をつなぐ

北海道の豊かな食文化創造
食育（食べるたいせつ）
食の安全・安心

- 店舗事業　地域の一番店めざして「おいしいお店」
- 宅配事業「トドック」（P10）
- 道産にこだわった商品開発
  （北海道100、なるほど商品、黄金そだち）（P11）
- エゾシカ肉販売拡大（P15）
- 管理栄養士監修の食事宅配「栄養管理食」（P19）
- 道内生産者を表彰「農業賞」（P14）
- 農園で一流シェフの味「畑でレストラン」（P15）
- 地元の小規模生産者を応援「ご近所やさい」
- 魚のおろし方学ぶ「魚の調理教室」（P13）
- 食べる大切さ子どもたちに
  「食べるたいせつフェスティバル」（P12）

人と人をつなぐ

社会の問題を解決
コミュニティづくり
助け合い

- 雇用の創造
  （障がい者、非正規から正社員、定年延長）（P6～8）
- 大学・NPOと介護予防で連携「まる元」（P17）
- 生活弱者対策「移動販売車」エリア拡大（P11・16）
- 独居高齢者見守る宅配「見守りトドック」拡大（P18）
- 災害時に生活物資供給　自治体と協定
- 北海道と包括連携協定
- 万一の備え「AED全店設置」

人と未来をつなぐ

子育て応援　平和活動
環境活動　国際支援

- 子育て応援「えほんがトドック」（P20）
- スーパーで仕事体験「おしごとキッズ」
- 9年で1600本植樹へ「未来の森づくり」（P21）
- 組合員から電力購入
- 宅配時に古着回収
- 資源回収からリサイクル「エコセンター」（P23）
- 電力小売参入へ

コープの
好きな人を
ふやす

巻頭特集

コープさっぽろの挑戦 地域社会と雇用

北海道の各地域で、人口減少が進んでいます。
地域で人がくらしていくためには、安心して、持続的に働ける場所が必要です。

しかし、地元で仕事が見つからなかったり、
くらしを支えるのに十分な収入が得られなかったり、
障がいや高齢のために働き口が見つからなかったり、
仕事はあっても担い手となる人がいなかったり。
さまざまな労働と雇用の問題が、北海道の各地域で生まれています。

コープさっぽろは社会が抱えるさまざまな課題に対し、
事業を展開することで解決に貢献してきました。
雇用は、コープさっぽろの事業を持続していくためにも、
大切で、切り離すことはできない問題です。
今回の特集では、地域社会を守るために、
コープさっぽろが行う雇用への取組をご紹介します。

北海道の
有効求人倍率
0.90倍
（'15年1月現在）

北海道の
完全失業率
4.4%
（'14年10月～12月期）

北海道の
非正規労働者
42.8%
全国:38.2%
（平成24年就業構造基本調査より）

北海道の
新規就職者の離職率
（3年以内）
高校卒 **50.5%**
全国:39.6%
大学卒 **38.2%**
全国:32.4%

北海道の
地方部の人口減少
3万7,065人
人口の1.04%に相当
（札幌市を除く、
平成26年人口動態調査より）

Interview

雇用を守り、地域を守る。

**地域に支えられる生活協同組合だからこそ、できることがある。
松下和生北海道労働局長に北海道の雇用の現状と、
コープさっぽろの雇用対策が目指すものを大見英明理事長が語り、
私たちの取組への意見や期待をお寄せいただきました。**

なぜコープさっぽろは雇用問題に挑むのか

大見　生活協同組合は地域に根ざす組織で、安定的・持続的に事業を行い、地域経済に貢献し、社会問題の解決に取り組むことがミッションです。資本主義経済の中では、企業は短期的な利益を優先して地域から撤退することがあります。協同組合は、地域で持続的な事業と雇用を同時に守らなければいけません。実際に'14年10月にカナダで開催された国際協同組合サミットでも、雇用は主要なテーマの一つでした。

コープさっぽろは、北海道で地域全体を持続的に活性化させることをテーマとしてきました。ほかの機能が取って代われない分野に対し、私たちが事業をし、新しい価値を創造する。雇用に対してもそういう貢献が必要だと思いました。

松下氏　最近のデータでは、北海道の有効求人倍率や完全失業率といった数字はかなり改善してきています。しかし北海道は広いので地域により状況は異なり、人口減少が進む地方では人手不足が強まっています。国の調査では、全国平均に比べ北海道の非正規労働者の割合や、高校生や大学生の新規就業者の3年以内の離職率が高いこともわかっています。

求人と求職のミスマッチも一つの問題で、北海道ではその解消のため、人手不足の業種の産業や仕事内容を求職者へ発信しています。また、求人する企業には労働環境や待遇面の改善をお願いしていますが、トップの方のご理解が必要な部分です。

コープさっぽろの雇用への取組と、その成果

大見　特に積極的に取り組んだのが障がい者雇用です。いわゆる社会的弱者といわれる方々の雇用機会創出は長く続く課題だからです。知的障がい者の雇用訓練センターとして、共同出資で北海道はまなす食品株式会社（以下はまなす食品）を設立したことが始まりでした。そのほか店舗や宅配センター、エコセンターでも雇用数を拡大し、障がい者雇用率4%を目指しています。

また、事業を雇用の観点から見直すと、過疎地での移動販売車や、高齢者や児童向けの社会給食といった、ある機能を代替する目的の新事業が、同時に雇用を創出しています。「なるほど商品」「北海道100」などの商品開発も道内工場の雇用拡大につながります。地産地消により地域に生産の循環が生まれ、安定的な発展につながります。

ただし、雇用をつくるだけでは一過的な取組になってしまいます。従業員には生活があり、ポジションを上げて地域に人が根づいてはじめて、持続的な取組となります。私たちは契約社員を「エリア職制度」として正規雇用化し、待遇改善しました。地域の異動を限定した正社員への登用は他業種にも波及し、先駆的な取組となりました。

松下氏　人口減少社会の中、地域から若い人が、本州や都市圏へ流出する動きがあります。魅力的な雇用の場の創出とともに、その地域で生活をするための支援・サービスを確保する取組が重要です。コープさっぽろの宅配、社会給食、過疎地での移動販売といった取組は、生活の利便性やサービスの確保・向上につながります。宅配事業の一環で高齢者の見守りを行っているのも大きな社会貢献だと思います。また、エリアを限定して正社員化する処遇改善の取組も、企業側には人が定着し、従業員側はニーズに応じた働き方ができる、双方にメリットがある取組です。しかも1,000人を目指すのは全国でもまれな規模だと思います。

障がい者雇用では、はまなす食品の設立・運営にご尽力いただき、障がいがある方の職業訓練と、その訓練修了生の雇用もされています。障がい者雇用率も法定雇用率の倍を目指す意欲的な取組です。全員参加型社会が求められる中、働くニーズをお持ちの方に働く場を提供し、社会で活躍していただくのは大切なことです。

未来に向けて、地域と雇用を守るために

大見　地域からの人口流出は進み、労働人口が減ることでさらに地域の衰退が始まるかもしれません。ただ、障がい者や年配の方の雇用を進めていて感じるのが、仕事のあり方を工夫することが生産性を上げるきっかけをつくるということです。これまでのやり方では無理でも、できるようにはどうするか知恵を出せば解決できることもあります。そういう事業の形を続けていきたいと思います。

松下氏　協同組合は地域社会に根ざし、組合員の皆さまそれぞれがお互いを支え合うという主旨で活動をされていると思います。地域で雇用と魅力的な職場をつくるには、まさしく社会的役割を持つ協同組合の活躍が重要になると思います。コープさっぽろの取組を進めていただき、さらにその成果をどんどん情報発信していただくことで、ほかの企業にも取組が広がることを期待しています。

コープさっぽろ
理事長
大見英明

北海道
経済部労働局長
松下 和生氏

社内制度による取組

より良い職場をつくる挑戦

雇用が抱える問題の解決に向けて、まずは誰もが働きやすく、さまざまな人に働く機会を提供する。
そんな職場をコープさっぽろ自身がつくることから始めました。

障がい者の就労機会を広げる はまなす食品の設立

雇用問題の最終的な目標は、安心して働き、くらせる地域を未来へ持続していくことです。では「安心して働ける」職場とはどんな職場でしょうか。さまざまな人が、それぞれの事情に応じて、くらしを豊かにする働き方ができることが理想です。

コープさっぽろが長年取組み続けてきた雇用の問題の一つが、障がい者が雇用の機会を得られることです。1993年、北海道の呼びかけにより、札幌市・江別市・北広島市など6つの自治体と11の民間企業が出資し、障がい者雇用に取組むはまなす食品が設立されました。コープさっぽろは出資金の45%を担いました。

Challenge 1

障がい者雇用率
3.40%
7,648人中257名

店舗本部 ……101名
宅配本部 …… 39名
エコセンター・生産工場・物流など …… 54名
その他…… 63名

はまなす食品は、障がい者と共に働く「企業部門」のほか、知的障がい者の職業自立を支援する「能力開発センター部門」がある道内唯一の企業です。'05年からは、コープさっぽろの特例子会社となっています。'13年9月には食品衛生優良企業知事表彰を受け、さらに12月には北海道認証の障がい者就労支援企業ともなりました。

障がい者の職業訓練を進める中で、また、'13年度にコープさっぽろ石狩工場の納豆の生産をすべてはまなす食品に移管し、事業規模を拡大。それによりさらに知的障がい者の雇用を進めています。

障がい者職員が増えることで 職場に支え合いと多様性が広がる

また、コープさっぽろの店舗や宅配センターなど、各拠点・施設でも障がい者雇用は進んでいます。法定雇用率は2.0%ですが、コープさっぽろはその倍の障がい者雇用率トータル4.0%を目指して取組を続けています。

特にエコセンターでは、'08年の設立当初から障がい者雇用を進めてきた結果、全従業員16名中半数以上の9名となっています。

障がい者雇用は、各職場にも良い影響をもたらしています。指導者やパートナーを中心に障がい者職員をフォローする体制がつくられ、スムーズに作業を理解できるよう伝える工夫などもなされています。また、障がい者職員の中には、ある分野に秀でた能力を持つ人材もおり、多様性について理解が広がりました。職員の間に支え合いの心が一層強まっています。

地域で働きたいニーズと同時に 待遇も改善した「エリア職」制度

雇用の間口を広げるだけでなく、その仕事は安心して続けられるものでなくてはいけません。コープさっぽろの事業は、多くの契約社員やパート職員に支えられてきました。経験を積んだ人材は組織の財産であり、働き手のニーズに合わせた待遇や雇用制度が必要だと考えました。

そこで'14年度から、非正規（有期雇用）の契約社員が正職

Challenge 2

'14年度エリア職員登用者数
718名

店舗本部449名、宅配本部148名、事業本部38名、商品本部35名、生鮮本部26名、組織本部7名、管理本部5名、人事本部5名、本部5名

Voices

障がい者雇用の職員たちに、仕事のやりがいを聞きました。

大沼 広太郎さん
北海道はまなす食品株式会社
蒸煮担当

働く楽しさを知ることができました

ここで働く前は無職だったので、働くことの大切さと楽しさを知ることができました。包装を担当していた時は、ペースが速くなると「速くなったね!」とほめてもらえてうれしかったです。今は豆洗いや蒸煮を担当しているので、スピーディーに作業しないと次の盛り込みの人たちに迷惑がかかります。仕事の重要さを実感するとともに、内容を理解しきれていない部分を改善して、今よりもっと素早く作業できるようになりたいです。

老久保 諒さん
岩見沢南店
農産担当

顔なじみの組合員さんもできました

週末など、店舗にお客さまが多い時は朝から忙しく「働いているな」と楽しく感じます。私の担当は品出しや、バックヤードでの片付け、仕込みなどですが、組合員さんが顔を覚えて声をかけてくださるのがうれしいです。農産の皆さん、店長さんも親切で相談しやすく、左半身に麻痺がある私にやりにくい作業は配慮していただき、間違えた時はすぐに声をかけてくれます。一人前の仕事をできるようになり、任せてもらえる部分を増やしたいです。

押田 悠介さん
宅配白石センター
仕分け担当

一人で作業ができるようになってうれしい

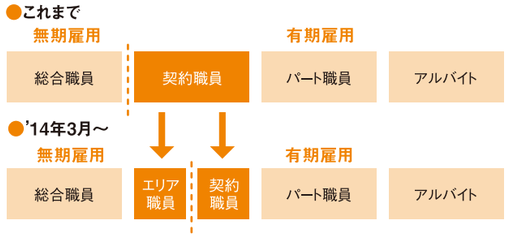
私は宅配センターで、荷物の片付けや仕分け作業、倉庫整理、センター内の清掃を担当しています。古着の回収が始まったこともあり、片付け作業は大変ですが、忙しい時や間に合わない時は仕分けさんが手伝ってくれ助かります。私は作業に時間がかかりますが、一人で仕分け作業ができるようになったこと、少しずつ早く仕事を終わらせることができるようになってうれしく感じます。目標は仕事が増えても時間内に終わらせることです。

福地 末鈴さん
宅配白石センター
仕分け担当

自分の仕事がお客さまに届くのがやりがい

宅配センターの仕事では、配達から帰ってきた後の片付け作業が一番大変です。でも一度に何台も帰ってきて量が多くなると、ほかの仕分けさんが手伝ってくれます。一人で仕分け作業をまかせられることはうれしいです。自分の仕分けした物を、配達の方々がお客さまに届けてくれるんだと思うと、やりがいを感じます。古着回収など、新しい仕事が増えると覚えるまで大変ですが、正確な仕事をめざしてがんばりたいです。

員として働ける「エリア職員」制度を導入しました。これまでは正職員は道内全域での異動がある総合職のみでしたが、エリア職員は異動範囲を一定地域に限定し、その地域で働き続けられるようにしました。エリア職員の対象地域は札幌、旭川、函館、釧路、北見、帯広、室蘭、苫小牧の8地域です。



「働きたい」意欲に応える パート職員の定年延長

日本の労働現場は、長年団塊の世代に支えられてきて、その世代が65歳定年を迎えます。しかし少子化により若年労働者人口は減っており、労働力の離脱・減少が進んでいます。また、健康寿命は延びており、65歳になっても働く能力や意欲がある方も多くおり、その方々に応えるには仕事をしてもらえるようにすることだと考えました。

そこで'14年度からパート職員の定年年齢を引き上げ、68歳まで継続雇用する制度を設けました。これにより長く経験を積んだパート職員が残り、職場から技術やノウハウが失われるのも防げるようになります。

Challenge 3

'14年度
パート職員
定年延長対象者
981名

キャリアアップを可能にする 「コープさっぽろビジネススクール」

雇用を長い目で見た時、職員がその働きに応じたポジションに上がっていけるよう、キャリアアップしていける教育・研修も制度面で重要な取組です。

コープさっぽろは、道内唯一の経営系専門職大学院である小樽商科大学ビジネススクール（OBS、正式名称:小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻）との連携講座で、「コープさっぽろビジネススクール」を'11年に立ち上げました。OBSの修士課程の内容から基礎教育を、毎週木曜日、年間34回のコースで実施し、修了者には小樽商科大学との連名の「コープさっぽろビジネススクール修了証」を渡しています。パートを含め職員100名前後が毎年受講しています。

'13年からは、幹部教育の機会を求めていたお取引先各社にも門戸を開放しました。通算の受講者が600名を超え、'15年度はケーススタディとビジネスプランニングを軸とした年12回の中級コースを開講します。

Challenge 4

'14年度
ビジネススクール
受講者
196名
コープさっぽろ88名、
お取引先108名

重点事業・商品開発による取組

問題解決型の事業による挑戦

人口減少の時代に、地域のくらしを守るという課題に向けて、さまざまな事業を行っています。
さらに取組を雇用という面からとらえ直し、貢献する形を考えています。

人も店も減る地域の くらしを守るための事業

北海道では地域からの人口流出が進んでおり、'14年には札幌市以外の地方部では人口の1%を超える約3万7,000人が減少しました。一方で札幌市では人口の増加が続き、一極集中が始まっています。

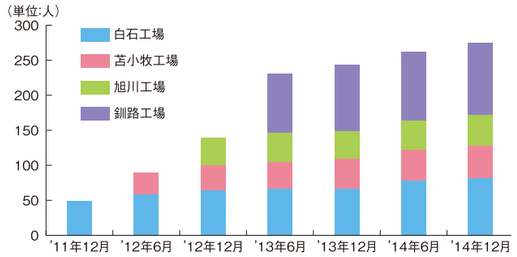
人が減ると、産業が失われ、生活に必要な機能もだんだんと維持できなくなっていきます。特に顕著なのは小売サービスであり、買物客が減った地域から店舗が撤退することが続きました。その地域の方々は、隣町やもっと遠くの小売店まで買物に行かなければならず、自家用車のない方々や体力の衰えた方々に買物難民が発生しました。

また、生活サービスが消えたまちからは若者や労働年齢の層が離れていき、過疎とともに超高齢化も進行するという問題も

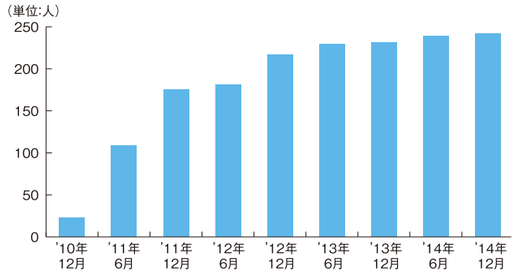
Challenge 5

'14年度
社会給食事業
配食工場の雇用人数
275名
配達スタッフ人数
242名

雇用人数の推移



配食拠点配達スタッフ人数推移



北海道の各地で発生しました。独居や高齢者のみの世帯の生活やくらしの安全をどう守るかということも大きな課題となりました。

それらの問題を解決するために、コープさっぽろはさまざまな取組を始め、継続してきました。それらの取組は、生活に必要な物資・サービスを届けて地域のくらしを守り、さらにそのサービスにかかわる雇用も生み出しています。

高齢者見守りから始まった配食サービスが拡大

高齢者の食事の支援と安否確認を目的に、'10年10月に開始したコープ配食サービスもその一つです。'12年4月からは、コープさっぽろの独自の食品添加物基準など安全・安心への取組や、配送などのネットワークを生かし、道内の保育園・幼稚園への給食サービスを開始しました。さらには産後食や療養食などさまざまなメニュー開発を行ってきたほか、サービス対象地域も拡大してきました。

それに伴い、'11年11月に白石に専用工場を設置したのを皮切りに、'12年5月には苫小牧、10月に旭川、'13年7月には釧路に工場を設立し、工場の従業員を拡大してきました。'14年度は48市町村に食事をお届けしています。

全道ネットワークを築いた宅配システム「トドック」

地域のくらしを守る基礎となってきたのが、北海道全域にコープの商品をお届けする宅配システム「トドック」です。もともとは複数の組合員による協同購入に始まり、1998年に個人の自宅に商品を届ける宅配方式になりました。'06年にシステムの名称が「トドック」となり、北海道のくらしを応援する取組として、キャラクターも誕生しました。今や全道31万人の方にご利用をいただいています。

それとともに全道31カ所に宅配センターを置き、拠点を結ぶ物流のネットワークを含めて、全道に食品を中心に物資を届けるインフラをつくり上げました。各地で宅配を担当する職員は「地域担当者」とし、商品をお届けするだけでなく、その地域に住む高齢者の見守り・安否確認を行っています。また、宅配センターには積み込みや仕分けを支援する後方スタッフもおり、その分野で障がい者の雇用も進んでいます（P6参照）。

Challenge 6

コープ宅配システムトドック
'14年度宅配センター職員数

総数1,434名

札幌西地区7センター	304名
札幌東地区5センター	297名
旭川地区8センター	241名
苫函地区7センター	368名
道東地区4センター	224名

商品を積んで過疎地を巡る移動販売車「おまかせ便カケル」

コープさっぽろは、地域からの要請に応じて出店計画を進めてきました。しかし、過疎化の進んだ地域では店舗運営の維持が難しく、持続的な事業にならなければ地域貢献にも、安定した雇用を生むことにもつながりません。

そこで、地域の既存店舗を拠点として、商品を積み込んだ移動販売車を運行することで、店舗の代替機能を果たしています。当初は夕張市の1台から始まった移動販売車は、「おまかせ便カケル」という愛称がつき、現在では73台が道内124市町村を運行しています。

北海道で製品をつくり消費することで循環をつくる

コープさっぽろは、メーカーと協力してさまざまな商品開発も行っています。'08年の中国ギョーザ事件を教訓として、安全・安心な食の供給体制を築くことが大きなテーマとなりました。そこで出した結論が、トレーサビリティのしっかりとした原料を使用し、北海道内の工場で生産をするということです。

「北海道100」シリーズを皮切りとして、さまざまなプライベートブランドの開発を続け、地域資源を商品化してきました。また、組合員がその商品を消費することによって、地域の中で循環が生まれ産業となります。広報誌「Cho-co-tto」などを通し、そのことを伝えるのにも力を入れています。

Challenge 7

「おまかせ便カケル」
'14年度移動販売スタッフ数

90名

移動販売本部	4名	函館地区	16名
札幌地区	9名	苫小牧地区	6名
北見地区	8名	日高地区	5名
旭川地区	7名	室蘭地区	7名
北空知地区	9名	釧路地区	6名
南空知地区	8名	帯広地区	5名

Challenge 8

コープさっぽろの商品開発

北海道100

北海道の優れた農産物や海産物を使用し、北海道内のまじめで良質なものづくりをする工場で生産する、100%北海道にこだわった商品です。商品はコープさっぽろに限らず、全国に向けて発信する販路を広げることで、製造にかかわる会社の経営支援につなげ、北海道のシェア向上を目指しています。

■取引企業数／35メーカー
■総売上／78商品 3,000,244,813円
（発売開始～'15年2月23日）

なるほど商品

シンプルと良質、北海道での製造にこだわったコープさっぽろのプライベートブランドです。おいしさや産地、便利さ、安心などが商品名やパッケージを一目みただけでわかるように工夫しています。また、新たに栄養成分の含有量と1日当たりの摂取目安量に対する割合、カーボンフットプリント（P25参照）を追加しました。

■取引企業数／42メーカー
■総売上／103商品 5,039,038,572円
（発売開始～'15年2月23日）

黄金そだち

米の消費量・生産量減に伴う休耕田増加の問題、畜産の飼料に占める輸入飼料の多さと食糧自給率低下の問題を解決するため、北海道産のお米を飼料に活用する取組を進めました。道産米を飼料として牛・豚・鶏を育て、肉類だけでなく乳製品や卵も含め「黄金そだち」ブランドとして販売しています。'12年にはフード・アクション・ニッポン アワードで大賞を受賞しています。

■取引企業数／11メーカー
■総売上／32商品 1,590,959,216円
（発売開始～'15年2月23日）

2014年度 活動報告

人と食をつなぐ事業の輪

食はくらしに欠かせない、たいせつなもの。
しかし、現代ではさまざまな問題が、人と食の間に横たわっています。
コープさっぽろは、食の知識を伝え、食への信頼を守る取組により、
皆さんが安心して食を楽しめる毎日を届けることを目指しています。

楽しく体験しながら食べることの大切さを発見

［食べる・たいせつフェスティバル2014］

地域の名物となる食育イベントを目指して

現代は豊かな食が確立された半面、生活習慣病の増加や子どもだけの食卓など、食生活におけるさまざまな問題が生まれています。コープさっぽろは、食育に取組む組織とネットワークを築き、より良い食の環境をつくることが必要と考えました。そこで'07年より「食べる・たいせつフェスティバル」を開催しています。

このイベントは、北海道各地のおいしい「食」の再発見の場、地産地消の取組紹介の場、そして地域の生産者・お取引先と消費者（組合員）との交流を深める場となることを目指しています。そして、楽しい企画で「食べることの大切さ」を体験・発見できる地域の名物イベントを目指し取組んできました。

体験プログラムを充実させ子どもたちの『食教育』の場に

'14年度は『北海道の食材をおいしく食べよう!』を全体テーマとし、楽しみながら学び、興味や発見を実感できる「体験型学習企画」の拡充に重点をおきました。そこで今年度から、各会場で最も優れた取組を実施した団体の皆さまに「食べる・たいせつフェスティバル体験型学習企画優秀賞」を贈呈する新たな企画を実施しました。これにより多くのアイデアが生まれ、昨年度より60多い188の体験型学習企画が行われ、プログラムの充実が図られました。

札幌会場の様子

鮭の解体を行い、生の魚やイクラの感触を体感する子どもたち

参加者の声

- 予想以上の賑わいと内容の充実で大変楽しめました。来年もまた来ます。
- 子どもも大人も楽しめるイベントでうれしい。
- 販売目的だけでなく、学習できる内容の企画があってとても良いと思いました。
- 道産、地元食材の出展が中心でとても良かったです。

■'14年度地区別開催状況

開催日	地区	会場	来場者数			出展・支援者	
			'13年度実績	'14年度実績	前年との差	出店者数	支援者人数
8月31日	苫小牧	苫小牧市民会館（全ホール）	1,758	2,080	322	60	311
9月20日	釧路	釧路市観光国際交流センター	1,937	1,438	▲499	49	248
9月27日	札幌	スポーツ交流施設 つどーむ	9,310	7,094	▲2,276	104	836
10月12日	帯広	十勝農協連家畜共進会場 アグリアリーナ	2,235	3,053	818	48	270
10月18日	函館	函館総合卸センター 流通ホール	1,624	2,713	1,089	39	323
10月25日	北見	サンドーム北見・サンライフ北見	2,129	2,729	600	64	280
11月 9日	旭川	旭川地場産業振興センター（全館）	3,647	4,828	1,181	50	300
7地区合計			22,640	23,935	1,235	414	2,568

魚をおろせる人を増やし、調理技術を継承する

［魚の調理教室］

和食に欠かせない魚の消費拡大を目指す

魚は和食に欠かせない食材で、多彩な調理法は伝統文化にもなっています。しかし、近年は魚をさばけない消費者が増え、丸ごと一匹の魚の需要が低迷しています。そこで、コープさっぽろは魚をおろす調理技術を伝え消費拡大につなげることを目指し、札幌市中央卸売市場と協力して「魚の調理教室」を開催しています。

受講者は、申し込み店舗から中央卸売市場までバスで送迎します。市場を見学した後、調理師から3枚おろしの方法を教わり、おろした魚を調理して試食するプログラムです。調理に使わなかった分はおみやげとして持ち帰ることができ、受講料は1人あたり1,500円です。

この取組は、フードアクション・ニッポンアワード2014の流通部門優秀賞を受賞しました。フードアクション・ニッポンアワードは農林水産省が中心となり、食料自給率向上に寄与する事業者・団体などの優れた取組を表彰するものです。

「魚の調理教室」は、札幌地区の40店舗を皮切りに、地方の店舗での開催も進めています。今後は道内109店舗全店での開催を目指しています。

魚食普及委員会の講師により、最初は調理見本が示されます

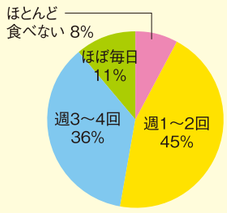
コープ職員と市場職員で個別指導も実施します

市場内を見学。市場勤務50年の方のお話に聞き入ります

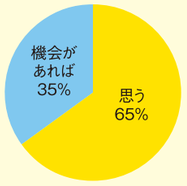
開催店舗	回数	参加人数
55店舗	78回	約1,300名

参加者アンケートより

■週に何回魚を食べますか?



■今後丸魚を一匹買って調理したいと思いますか?



参加者の声

- 知人から生魚をいただいてもさばくことができず実家にかけこんでいました。これからは自信を持って調理できます。
- なかなか自宅でお魚を料理することはありませんでしたが、つきっきりで先生に教えていただけて本当に良かったです。
- 子どもが肉嫌いなので魚を食べるのですが、いつも惣菜やレンジアップの商品でした。これからは一匹買って焼いてあげたいです。

北海道の農漁業生産者を応援し、交流を深める

［第9回コープさっぽろ農業賞］

安全・安心な食づくりを消費者が応援し、表彰する

消費者の元に安全・安心な食が届くには、農業や漁業の生産者が安全・安心に心を配って生産をするところから始まります。そうやって生産された農産物や海産物を消費者が選ぶことで、循環が生まれ、人にも環境にも優しい農漁業を未来に持続していくことができます。

コープさっぽろは'04年より、安全・安心な食の提供や消費者との交流に努める農漁業者を、消費者の立場から表彰し応援する「コープさっぽろ農業賞」を実施しています。'11年からは表彰は3年に1度とし、受賞生産者との交流を主に進めてきましたが、'14年は3年ぶりに第9回農業賞表彰を実施しました。

北海道農業の未来を担う新規就農者たちも新たに表彰

第9回は農業賞部門に53、漁業賞部門に15、農業漁業交流賞部門に28の応募がありました。審査委員が現地を訪問し、生産風景を見て、生産者や交流団体の想いを直接聞いて審査を行いました。

'14年度からは、農業賞部門に「優秀新規就農者賞」を新設しました。将来の担い手不足が心配されている北海道の農業生産において、チャレンジ精神を持って優れた農業を実践し、地域に新しい風を起こす若い生産者の方が多く、また、別の世界を歩んでから農業に従事し、外部の経験や新たな知恵を加えて従来とは異なる意欲的なチャレンジを行われる方もおり、うれしい発見が多くありました。

農業賞の現地審査風景

また、組合員から北海道の食への感動や農漁業者との交流を写真で応募いただく写真部門も設けています。今年は新たにスマートフォンや携帯電話での撮影に限定した4枚組写真の部を設け、新しい視点から農漁業や食をとらえた作品が多数応募されました。

第9回のコープさっぽろ農業賞表彰式は、'14年11月7日に札幌パークホテルにて行われました。受賞者や歴代受賞者、審査委員、実行委員、来賓、組合員など296名が参加。その後は交流会が行われ、受賞生産者の食材を使った特別料理を味わいながら交流を深めました。

主な受賞者

農業大賞 北海道知事賞

有限会社大牧農場（音更町）

中音更地区の3軒の生産者により設立。約400haの農場でジャガイモ、大豆、小豆、ナガイモなどを生産し、科学的データに基づき堆肥を用いた土づくりにも取組みます。

審査委員より

土地の改良に取組み、環境保全型の大規模経営ノウハウを確立。次世代の引き継ぎもよく出来ています。

農業大賞 コープさっぽろ賞

株式会社大雪を囲む会（道内）

小清水、上富良野、滝川などに点在する11の有機生産農家が参加し'10年に設立。ニンジン、ゴボウ、タマネギ、ジャガイモなどを統一ブランドで出荷しています。

審査委員より

大雪を囲む11農場が有機農業で会社組織を作り加工品の取組も進め、今後の有機農業の模範となります。

優秀新規就農者賞

押谷農園（長沼町）

押谷行彦さんは関西出身で、26歳の時に農業に従事するため北海道へ。研修後1999年に就農し、科学的なアプローチや、農業景観にこだわった新しい農業に挑戦しています。

審査委員より

新規就農11年で科学的な成分分析や土管理で持続的な農業を実施。新たな新規就農者も育てています。

漁業大賞 コープさっぽろ賞

散布（ちりっぷ）漁業協同組合（浜中町）

長年コンブ漁をメインにしてきた漁協で、ウニの養殖技術を開発。天然の餌で環境に負荷をかけずおいしいウニを生産しています。

審査委員より

拾いコンブを餌に試行錯誤を繰り返しながら、全道でも唯一のエゾバフンウニの養殖を成功させ、地域の雇用創出にも貢献。

生産風景を見ながら一流シェフによるランチを

［畑でレストラン2014］

「コープさっぽろ農業賞」受賞生産者の畑で、名店のシェフがとれたての農産物のランチを提供する「畑でレストラン」。現在のスタイルになって3年目となり、参加経験のあるシェフが増えたことでオープンキッチン形式や懐石風スタイル、ワインのペアリングなど、遊び心あふれる挑戦が増えました。また、ランチ前の農園見学も、生産者からのアイデアで収穫体験や食べ比べが行われるなど充実し、食のプログラムとしてレベルアップしています。

'14年は2年ぶりに北見・十勝・道南の3地域で地方開催を実施。十勝・道南では北海道庁「ヴァンフロマージュ北海道」事業と連携し、道産ワインやチーズをPRするスペシャル開催を展開しました。また今年から、参加者に農園の野菜・加工品をおみやげとしてプレゼントすることを始めています。一部開催では、新人アーティストが無料アコースティックライブを食事中に提供する音楽とのコラボレーションを行いました。参加者からは「何度来ても楽しい」、また生産者からも「自分の作った野菜がシェフの手で変身することに感動する」と好評をいただいています。

実施回数	23回（うち地方開催5回）
参加人数	916名

十勝・道南ではソムリエやチーズの専門家を招き、道産ワインとチーズのミニセミナーも行いました

鶴沼ワイナリーではワインペアリングを行い、参加者は料理とワインのマリアージュを満喫しました

生産者がさまざまな工夫をして、ファームツアーの内容が充実しました

食と農業の問題に北海道と協力し取組む

［エゾシカ肉販売拡大］

エゾシカが増加し、農林業や生態系に与える影響が大きな社会問題となっています。北海道ではエゾシカ肉の食肉としての利用拡大が解決方法の一つとして進められています。コープさっぽろは、北海道、エゾシカ食肉事業協同組合と協働し、安全性が確保されたエゾシカ肉の流通販売のしくみをつくりました。そして、'13年10月22日からコープさっぽろの6店舗でエゾシカ肉とその加工品の販売を始めました。

'14年は苫小牧・帯広・函館・室蘭の4店舗でエゾシカ肉の取扱いを始め、販売店舗を計10店舗に拡大しました。また、10月28日には苫小牧・パセオ川沿店と札幌・ルーシー店においてエゾシカ肉の普及啓発活動も行いました。

エゾシカ肉の売場（ルーシー店）

2014年度 活動報告

人と人をつなぐ事業の輪

一人ではなく、みんなで助け合い支え合うほうが、
きっと楽しく、安心してくらせるまちになる。
人と人がつながるコミュニティをつくることも、
コープさっぽろの大切な事業の一つと考えています。

利用者からの要望に合わせて商品を充実させています

買物が困難な地域のくらしを支える

［コープの移動販売車「おまかせ便カケル」］

「買物がしたい」声に応えて移動販売車を124市町村で運行

高齢化・過疎化が進むと、地域から小売店が閉店・撤退し、遠くまで買物に行かなければいけない人、さらには買物に行けない人を生み出します。コープさっぽろは宅配トドックで全道の組合員に商品を届けることができますが、「食材を目で見て選びたい」「お店で買物をする時間が楽しみの一つ」といった、店舗で買物をしたいという声がありました。そこで'10年から移動販売車「おまかせ便カケル」を各地に走らせています。

社会貢献と事業の両立を成し遂げながら、行政や住民からの要望に応えることにも重点を置いています。地域の小売店舗が閉店し、お年寄りが困っているという洞爺湖町からの要請で新コースを設定したり、既存のコースでも住民の要請で停車位置を見直したりと、運行コースはより便利になるよう調整・設定しています。'14年度にはカバーするエリアが全道124市町村になりました。

もっと親しまれる存在となるため利用者の声に応えて改善

車両は高齢者が利用しやすいよう、低床トラックに手すりや格納式ステップを備えています。利用者から品ぞろえに魚を求める要望が多かったことから、冷蔵庫・冷凍庫のサイズを大型の物に変更し、照明をLEDに変更しました。また、惣菜などのホットケースも新たに加えるなど仕様を進化させています。

商品は常時1,000種類をそろえています。こちらも高齢の利用者からの要望に応え、昔ながらのお菓子や、仏壇のお供え用和菓子などを充実させました。

おまかせ便カケルの取組はマスコミからも注目され、テレビや新聞、雑誌社などの取材を受けています。TBS「がっちりマンデー!!」では全国放送されたほか、NHK特集でも取り上げられ、多くの方の目にふれました。お客様から「カケル観たよ」との声もあり、認知度と親しみが増したと感じています。

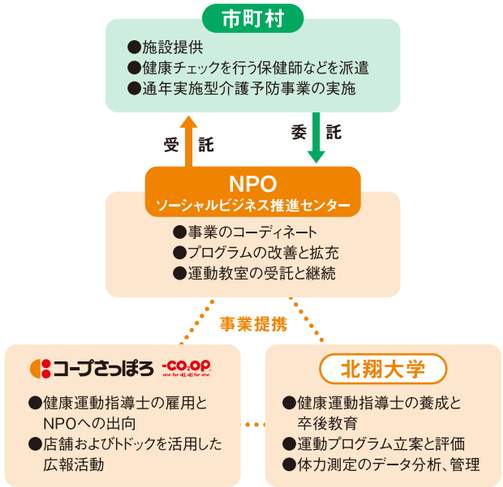
介護予防のプログラムをコラボレーションの力で全道へ

［地域まるごと元気アッププログラム］

高齢化する地域を元気に! 運動で健康寿命を延ばす

介護を必要とせず日常生活を送れる「健康寿命」をいかに延ばすかが、高齢化社会の課題の一つとなっています。その一つの重要な要素が、体力に合った適切な運動です。「地域まるごと元気アッププログラム（まる元）」は、高齢化が進む地域で、運動を通した健康づくりを行うことで地域の活性化を図る取組として、'10年に始まりました。

'14年10月10日には、コープさっぽろはNPO法人ソーシャルビジネス推進センター、北翔大学と連携協定を締結しました。今後3カ年で道内60市町村で「まる元」を行う計画です。「まる元」のプログラムは、安全で効果的な運動を作成・実践できる健康運動指導士の有資格者が指導します。北翔大学生涯スポーツ学部にはこの資格の養成講座があり、その資格取得者をコープさっぽろが正職員として雇用。各市町村から委託を受けたソーシャルビジネス推進センターが行う運動教室に出向させるしくみです。



体力と体調に合わせて専門家が楽しいメニューを提供

「まる元」では、まず参加者一人ひとりの体力測定を行います。そのデータにより、指導者は運動教室への参加者の体力を正確に把握し、参加者は体力別（地域によっては地区別）にクラス分けされます。そして一人ひとりの体力やその日の体調に合わせて、やる気を高め体力を維持する運動を提案します。

参加者からは「歩くことが苦にならなくなった」「家族に若くなった、明るくなったと言われた」という感想が寄せられています。また、「週に一回、笑ってみんなと騒げる時間がすごく楽しい」「街中やスーパーで挨拶できる人が増えた」といった仲間づくりの効果による喜びの声も聞かれました。

実施自治体数	5
参加人数	毎週17クラス343名

（'15年3月現在）

運動教室開催の様子　赤平市の場合

Aクラス

杖歩行が必要な方や、立ち座りなどの日常生活に不安がある方でも参加できる、座ったままできる種目を中心に行います。

Bクラス

日常生活に不安はなくても関節痛などのある方が参加できるクラスです。

Cクラス

年齢とともに衰える体力を維持できる効果的なプログラムを提供します。さまざまなレクリエーション運動で参加者との交流も深まります。

高齢者が安心してくらせるまちづくり

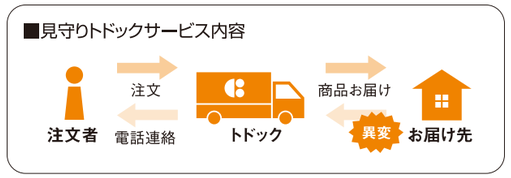
［高齢者見守り協定と見守りトドック］

離れて住む家族を見守る「見守りトドック」

コープさっぽろは、宅配システム「トドック」や配食サービスなどで職員が組合員のお宅にお伺いする機会を活用し、高齢者の安否確認など見守り活動を行っています。

'13年10月22日からは、「遠くに住んでいる家族に毎週コープの商品を届けてあげたい」という組合員の声をもとに「見守りトドック」のサービスがスタートしました。注文者とは違う場所にトドックの商品をお届けでき、同時にお届け先の状況を注文者に毎週連絡する「電話連絡サービス」を加え、見守り活動を強化させています。

■見守りトドックサービス内容

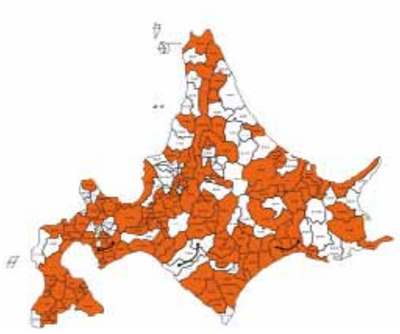


■見守りトドック登録者

お届け先	親	子	夫	その他	合計
利用者（構成比）	197人（54%）	124人（34%）	19人（5%）	23人（6%）	363人

「高齢者見守り協定」により見守りの輪が広がる

見守り活動で異変を発見した際、救助や病院・警察の手配など、必要な対処を行うためには各自治体や地域で連携のネットワークが築かれていなくてはいけません。そこで、道内の各市町村と「高齢者見守り協定」を締結しています。'14年度は20の市町村と単独協定を、秩父別町とは民間企業4社と合同協定を結び、さらに釧路市の「釧路市地域安心ネットワーク」への参加も含め新たに22市町村で協定を締結。道内179市町村中、見守りの輪は112市町村に広がっています。



職員の「気づき」を高める教育・研修・啓発を強化

各市町村との見守り協定締結で、さらに社会的な期待が高まっています。トドックの地域担当者は、万が一の際の知識や救助の技術を向上させ、さらに「気づく力」を身につけることが重要です。そこでトドックで働く全職員を対象に普通救急救命講習をスタートしました。さらに北海道庁と連携し、各種教育の中で地域の見守りについての講義を受講しています。

また、「トドックの担当者として」どのように行動すべきかの考え方を全員が学習し、万が一の時の行動を確立できるよう「見守りバイブル」というテキストを作成しました。日常の声かけのコツや、高齢者に多い病気の知識、実際に起こった見守り事例などを記載し、配達時の気づきを深めています。

普通救急救命講習は配達担当者816名（68%）が受講（'15年2月11日現在）

高齢者見守り事例

'14年度	53件（'15年3月20日現在）

●いつも通りのルートで配達していたところ、倒れているご老人を発見。骨折して動けなくなっていたため、救急車を呼んで病院へ。（室蘭）

●いつもご在宅の組合員さんがチャイムを鳴らしても出てきませんでした。見守り協定をもとに市の福祉課に連絡し、早急な対応ができました。（網走）

●いつもいるはずの方がいなかったため、センターと連絡を取り警察立ち会いのもと再訪問。ご自宅で倒れている組合員さんを発見し一命を取り留めました。（小樽）

●商品お届け時に屋根の雪下ろしをしていた方が、帰る時にいないことに気付き探しました。雪山に落ちて動けなくなっているところを発見し救出。（旭川）

食事の提供を通し高齢者の健康を守る

［コープ配食サービス］

食事の用意が困難な方に食事を届ける配食サービス

「コープ配食サービス」は、高齢者単独世帯や夫婦のみ世帯が増える中、食事の提供を通し見守り機能を高めるために'10年10月に開始しました。

その後幼稚園給食や産後食（産後の女性に向けた配食サービス）を加え、サービス対象エリアも拡大。'14年10月時点で利用人数は6,000人を超え、1日当たり5,962食を提供しています。

産後のからだにおいしいごはん

■'14年度配食サービス提供数（週平均）

①配食サービス	29,812食
②医療食・介護食	767食
③産後食	145食

■幼稚園給食サービス

取引園数	54園
提供数（週平均）	15,346食

療養中の方、介護を受ける方のニーズに合わせた健康管理食

急速な高齢化のもと、社会保障の方向としては在宅サービスにシフトしていく傾向にあります。中重度の回復期、慢性期患者が地域・在宅で生活していくためには、さまざまな支援が必要となってきます。

そこで、'14年8月1日から健康管理食・医療食の提供を始めました。食事制限に合わせて、カロリーやたんぱく質を制限したメニューを提供しています。また、11月1日からは介護食の取り扱いも開始。かむ力・飲み込む力が弱くなった方のために、やわらか食・きざみ食・ムース食の3形態を用意しています。

医療食（イメージ）

健康を維持できる食を提供し病気の予防につなげていく

現代医療は「予防」に重点がシフトしており、食事もその重要な要素の一つです。そこでコープさっぽろは、長寿日本一で、かつ高齢者が増えても医療費・介護費が増えていない長野県の取組に注目。減塩かつ野菜たっぷりの食事を管理栄養士が指導するコープさっぽろ版「食改さん」による予防運動を、コープさっぽろ文化教室や集会所などを利用して開催していきます。それに先立ち、天使大学とレシピ開発、高齢者健康維持関連事業に対する実施支援について、'14年11月に業務委託契約締結をしました。

2014年度 活動報告

人と未来をつなぐ事業の輪

未来を担う子どもたちが夢を持ち健やかに育っていけるように、
子どもたちや子育てをする家庭を応援したい、
そして子どもたちに緑豊かで安全・安心な環境を残したい。
コープさっぽろは未来を見据えた活動にも力を入れています。

絵本を通じて、子どもたちの成長を応援

［えほんがトドック］

トドックに絵本を届けられ喜ぶ子どもたち

絵本を通じて親子の絆と子どもたちの夢を育てる

コープさっぽろは、家庭での親子のふれあいを深め、子育て世帯が安心して交流できる環境をつくるため、'10年にコープ子育て基金を創設しました。その一環として、1～2歳の子どもがいる組合員家庭に年3回、計6冊の絵本を無償で届ける「えほんがトドック」の活動を続けてきました。'14年度の登録者数は7,890世帯で過去最高となり、これまでの5年間で35,213世帯、配布冊数は180,767冊となりました。

'14年11月の配本からは、登録者の中から抽選で4組の家庭にトドックが直接絵本を届ける企画をスタート。「子どもにとって、トドックからもらった特別な本になった」など喜びの連絡をいただいています。

■'14年度配本の絵本

7月配本
「クロコダイルとイルカ」

11月配本
「ロージーのおさんぽ」

3月配本
「あいうえおにぎり」

利用者の声

- 自分で選ぶ本はどうしても好みが偏ってしまいますが、えほんがトドックで贈っていただいた本は、バラエティー豊かで楽しい本ばかりです。
- ゆっくり子どもたちと過ごす時間が少なくなっている日常に、絵本が届くと一緒に読む時間が自然とできます。私と子どもの大切な時間です。
- 「クロコダイルとイルカ」「ロージーのおさんぽ」どちらも絵が大きくて見やすく、まねしたくなるような表情が描かれ、何度見ても飽きないようです。

絵本をキーワードに親子で楽しめるイベントを開催

また、全道の保育園・幼稚園や子育て支援センターで「えほんわくわくキャラバン」を実施しています。子どもたちに絵本の楽しさを知ってもらえるよう、読み聞かせやダンス、リズム体操などを行う企画で、今年度は114回開催し12,059名の幼児が参加しました。開催した園の保育士などから、「1～6歳児まで全年齢が楽しめる内容で驚いた」「絵本の読み方が参考になる」「オリジナルの手遊びや楽曲を保育で使いたい」などの感想が寄せられました。

そのほか基金を活用し「絵本でわくわく!ファミリーライブ」や「はせぼん&たけぼんマジカルコンサート」など親子向けイベントも開催。絵本を通じて楽しい時間を過ごしていただきました。

えほんわくわくキャラバンの様子

6月に開催された「絵本でわくわく!ファミリーライブ」

北海道の大自然や文化にふれあう機会を

［福島の子どもたち・北海道へ遊びに行こう! 大自然北海道ツアー］

原発事故の影響で、十分に外で遊べない福島の子どもたちを招き、自然豊かな大地で力いっぱい遊んでもらう取組を'12年から実施しています。費用は組合員の皆さんに支援募金をいただいており、2カ月間で7,535,809円をお寄せいただきました。

'14年度は春休み（3月23日～26日）と夏休み（7月20日～24日）の2回、総勢61名を北海道に招きました。今年度は宿泊拠点を決めて移動時間を短縮し、遊びに集中できる環境が整いました。「ラフティング」「ハイキング」「農業体験」「アイヌ文化博物館見学と踊り・沙流川歴史館の見学」といった新プログラムは子どもたちに大人気で、北海道での貴重な体験となりました。

晴天の下でのラフティング体験

アイヌの民族衣装を着て記念撮影

善意を集め海外の子どもたちに安全な水を

［ブータン水と衛生プロジェクト］

ブータンの学校に安全な水と衛生的なトイレを設置するためのユニセフ指定募金「ブータン水と衛生プロジェクト」への支援は5年目となりました。'14年6月までにブータンの29の小学校に新しい水道・トイレが設置され、周辺の約2万人の子どもたちの健康と衛生状態が改善されています。

■'14年度ユニセフ募金額

店舗	1,980,176円
宅配	4,960,600円
本部	4,107,952円
合計	11,048,728円

組合員と共に進める森づくり

［コープ未来（あした）の森プロジェクト］

コープの森植樹祭の様子

店舗でレジ袋を辞退された分を基金として積立て、森づくりに活用する「コープ未来の森づくり基金」を'08年から始めています。基金は植樹を中心に、森づくりに取組む団体の支援や、森づくりにかかわる方々と組合員との交流会、森とのふれあい活動やワークショップなどの開催に使われています。

'14年度も植樹活動を進め、全道11地区11会場で実施した「コープの森植樹祭」には940名の組合員の参加をいただきました。

■'14年度植樹本数

コープの森植樹祭	4,516本
ぎょれん魚付林植樹	5,405本
その他	96本
合　計	10,017本

原発に頼らないエネルギー社会を

［大間原子力発電所建設差し止め訴訟支援募金］

コープさっぽろは東日本大震災の教訓から、原発に頼らないエネルギー社会を求めて再生エネルギーを推進する立場を取っています。函館市は大間原発建設予定地の30km圏内に位置し、国と電源開発株式会社を相手取り建設差し止め訴訟を行っています。裁判の長期化に備え訴訟費用を支援するため、コープさっぽろでは'14年6月21日から募金活動を実施。店舗やトドックにおいて、3カ月間で集めた1千万円を、10月9日に函館市に寄付しました。

'14年10月9日、中島則裕専務理事が工藤寿樹函館市長に寄付の目録を渡しました

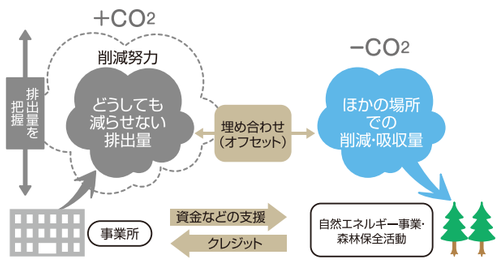
環境活動トピックス

コープさっぽろは'08年度から環境活動を事業の一つの課題として、取組を推し進めています。
'14年度に高い評価を受けた2つの取組をピックアップしてご紹介します。

Topic 1 カーボン・オフセットの取組

北海道と連携企業が協働し森づくり

コープさっぽろが'13年に北海道と締結した包括連携協定の協働する項目には、森林づくりの推進が含まれています。'13年、組合員参加型の社会貢献企画として、同じく北海道と協定を締結しているサッポロビール株式会社と、北海道を加えた3者の協働で「北海道の森を元気にしよう!共同キャンペーン」を実施しました。その内容は、サッポロビール株式会社の商品を、二酸化炭素排出権を付与したキャンペーン缶として販売し、集まったお金で北海道内のカーボン・オフセットのプロジェクトを支援し進めるものです。



カーボン・オフセットとは?
どうしても削減できないCO_2排出量を、自然エネルギー事業(CO_2削減系)や森林保全活動(CO_2吸収系)のプロジェクトに投資して埋め合わせ(オフセット)をすること。

対象商品や支援する取組数を拡大

そのキャンペーンを、2年目となった'14年度にも継続。対象商品の種類や販売する量、カーボン・オフセット量を拡大して実施しました。また、売上を寄付する対象プロジェクト数も全道11カ所に増加し、幅広くカーボン・オフセットの取組を推し進めました。

この取組により第4回カーボン・オフセット大賞の環境大臣賞と、第16回グリーン購入大賞の協働プロジェクト部門優秀賞をサッポロビール株式会社、北海道と共同受賞しました。グリーン購入大賞の受賞は2年連続となります。

北海道の森を元気にしよう! 共同キャンペーン第2弾

実施期間 '14年7月9日〜対象商品販売終了まで

内容
- ●サッポロ生ビール黒ラベル
- ●サッポロクラシック
- ●サッポロ麦とホップThe gold
- ●サッポロドラフトワン

※各1ケース24缶入

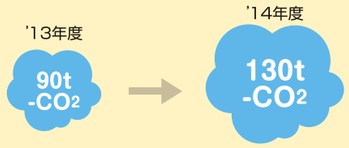
1缶につき約66g-CO_2(1円分)をオフセット
75,000ケース販売

- ●ポリフェノールでおいしさアップ たっぷりサイズの赤ワイン
- ●有機酸でおいしさアップ たっぷりサイズの白ワイン

※各1ケース6本入

1本につき約666g-CO_2(10円分)をオフセット
2,500ケース販売

■寄付先
●「キキタの森」の間伐促進プロジェクト(北海道)●北海道4町連携による間伐促進型森林づくり事業(足寄町・下川町・滝上町・美幌町)●紋別市有林間伐促進型森づくり事業●サケのふるさと森林づくりプロジェクト(標津町)●サンタの森づくりプロジェクト(広尾町)●士幌町有林間伐促進による森林づくりプロジェクト●次世代に引き継ぐ豊かな森林づくりプロジェクト(上士幌町)●南ふらの町有林の間伐促進によるCO_2吸収量促進事業●ニシンが群来る豊かな海を未来に繋ぐ森づくり(石狩市)●優駿を育む森づくり(浦河町)●コープ未来の森づくり基金



(排出権購入額135万円) (排出権購入額195万円)

Topic 2 エコセンターの取組

人と環境に優しい施設として

事業活動や組合員の家庭から出る廃棄物の中には、リユース・リサイクルできる資源物が多く含まれます。コープさっぽろは'08年より、資源物を集めて圧縮・減容処理し、リサイクル業者に出荷する「エコセンター」を稼働しています。

エコセンターは身体障がい者の雇用(P6参照)にも力を入れ、能力に適した配置で業務にあたっています。今年度は16名中9名(約56%)の雇用を実現しています。

エコセンターでは施設の見学受入れを行い、組合員や学校の児童・生徒、他事業者・自治体関係者・他地域の生協など、さまざまな方のトータルな環境学習に役立っています。'14年度は19件、237名の方の受入れを行いました。

さまざまな方が施設を訪れ、循環型の地域社会づくりについて学ぶ機会としています

新たに古着回収をスタート

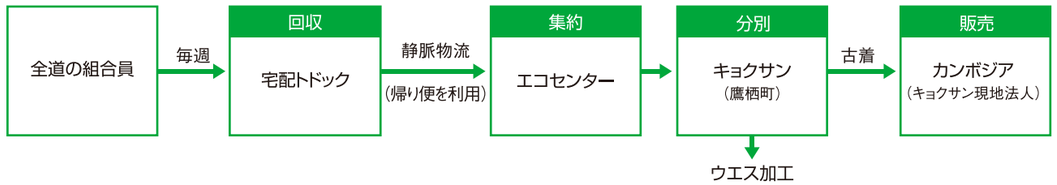
さらなるリユース・リサイクルを進めるため、これまでの宅配トドックによる資源回収に加えて、新たに古着古布の通年回収サービスを'15年2月23日に開始しました。

フォークリフトを操作する職員

まずは札幌地区で先行し、5月からは全道で開始します。全国と比較して低い北海道の繊維リサイクル率(8%)の向上に寄与することも狙いです。

回収した古着古布はエコセンターに集約し、北海道鷹栖町に工場を持つ繊維リサイクル専門会社の株式会社キョクサンに運びます。そこでリユースできる古着はカンボジアに輸出し、キョクサンの現地直営店で安価で販売します。その販売額の一部は北海道ユニセフに寄付します。リユースできないものはウエス(工業用雑巾)に加工してリサイクルします。

■古着古布回収の流れ

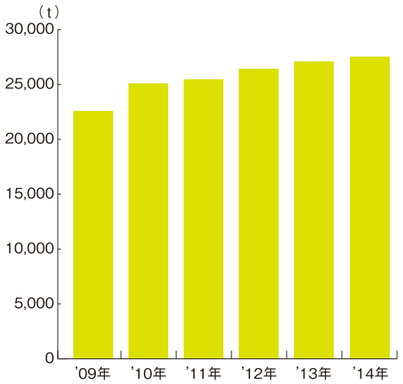


環境データ報告

事業活動がどのくらい環境に負荷をかけているか、そして環境活動によりどれだけの負荷を相殺できているか、
毎年データを記録し管理することが大切です。
ここでは、環境に関する主要なデータ数値をご報告します。

エコセンター回収量

Point ▶ 回収量は毎年増加しており、'14年度は27,571tの資源を回収しました。
これは11,239tのCO_2削減に相当します。

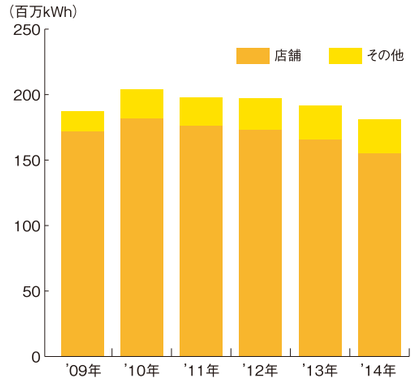


(単位:t)

	'09年	'10年	'11年	'12年	'13年	'14年	'13年比
ダンボール	14,843	16,456	16,291	16,294	16,120	15,907	99%
牛乳パック	264	302	313	307	289	292	101%
週刊ドック	5,985	6,293	6,673	7,427	8,262	8,950	108%
新聞紙	381	690	817	933	976	975	100%
発泡	446	474	471	467	416	384	92%
ペットボトル	50	58	57	61	60	58	97%
スチール缶	33	33	32	33	30	27	90%
アルミ缶	26	36	41	44	44	44	100%
PPバンド	37	40	36	37	41	40	98%
内袋	46	71	82	85	128	125	98%
廃食油	475	605	663	699	722	769	107%
合計	22,586	25,058	25,476	26,387	27,088	27,571	102%

電気使用量

Point ▶ 店舗の天井照明のLED化工事が終了し、'14年度の電気使用量は昨年度比94%と大幅に減少しました。
削減した電気使用量の11百万kWhは7,491tのCO_2削減に相当します。

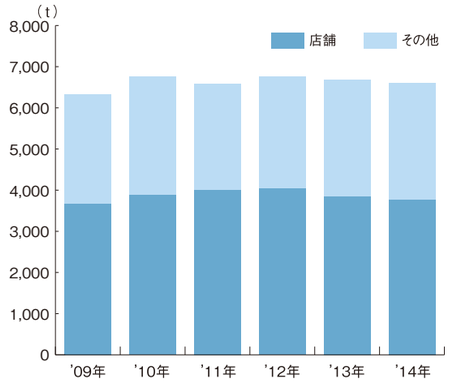


(単位:百万kWh)

	'09年	'10年	'11年	'12年	'13年	'14年
店舗	172	182	176	173	166	155
その他	15	22	22	24	26	26
合計	187	204	198	197	192	181

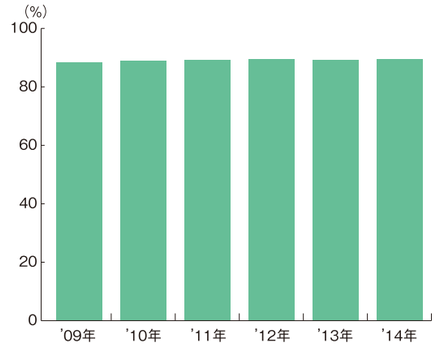
生ごみ排出量

Point ▶ 事業所から排出される生ごみは計量を行い、
廃棄量の見える化を行っています。



レジ袋辞退率

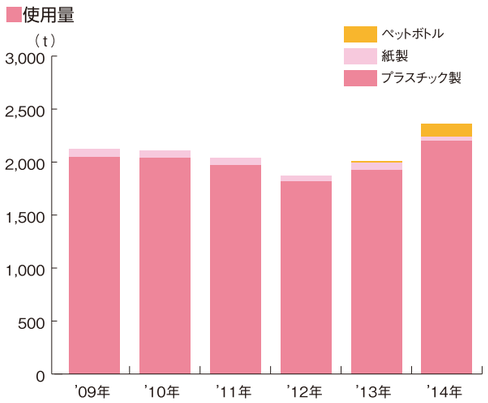
Point ▶ '14年度の削減率は89.5%となり、'08年10月にノーレジ袋運動を始めてから5年連続で89%以上の辞退率を達成しています。'14年度のレジ袋削減枚数は7,066万枚であり、3,375tのCO_2の削減に相当します。

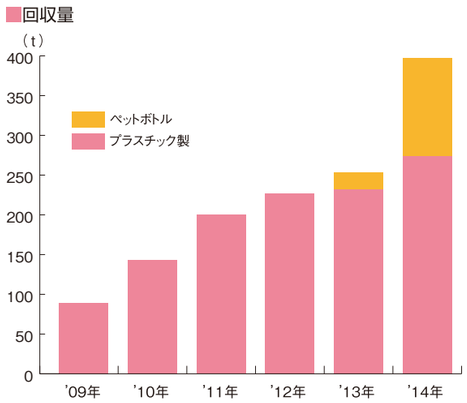


容器包装使用量

Point ▶ プライベート商品「なるほど商品」の増加により使用量が増加した分を、
エコセンターを中心とする資源回収により補っています。

Point ▶ '14年度から「なるほど商品」の包材にカーボンフットプリントの表示を始めました。環境への関心と配慮を訴えています。室蘭工業大学と連携したカーボンフットプリントの計算商品数は140品を超えています。

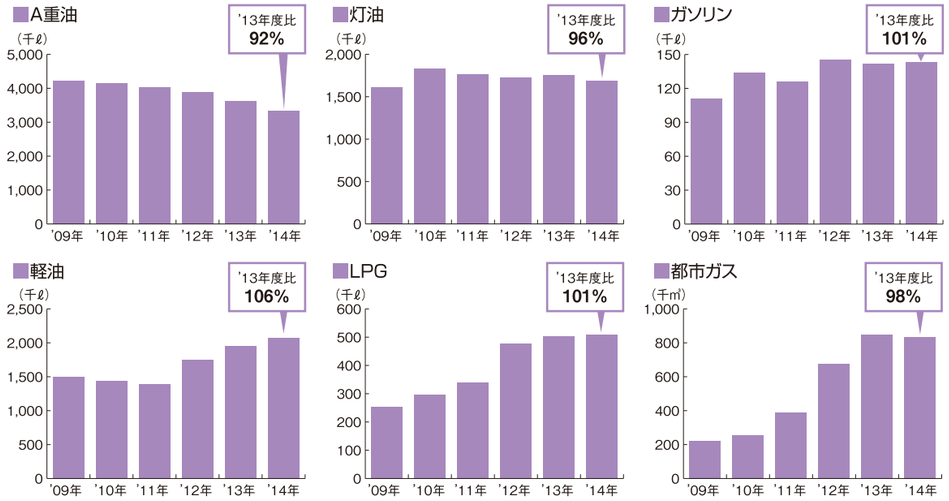




環境データ報告

エネルギー使用量（電気以外）

Point ▶ 重油からガスへ使用燃料の切換えを行い、CO_2排出量の削減を行っています。

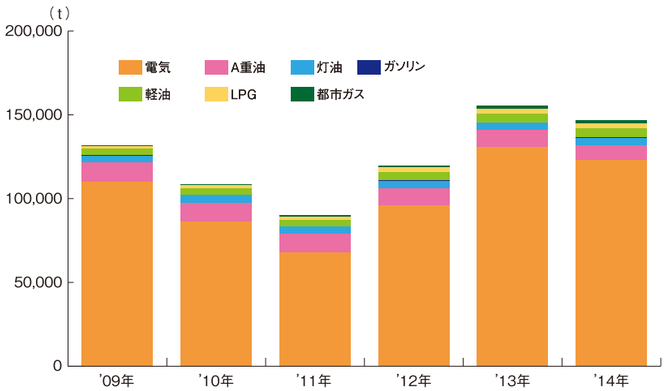


CO_2排出量

Point ▶ '11年の東日本大震災以降、電力のCO_2排出係数が大幅に増加（'11年の0.344から'14年は0.681）したため、エネルギー使用由来のCO_2排出量が増加していました。'14年度は基本照明の電気使用量を大幅に削減したため、'13年度比で6%のCO_2排出量の削減になりました。

倶知安店で地中熱を利用

灯油の代わりに地中熱を利用し、スロープの融雪を行っています。年間32tのCO_2排出の削減につなげています。



■CO_2排出量 （t）

	'14年	'13年度比
電気	122,872	94%
A重油	9,022	92%
灯油	4,206	96%
ガソリン	332	101%
軽油	5,447	106%
LPG	3,096	101%
都市ガス	1,758	98%
合計	146,733	94%

環境に関する受賞

'14年度に受けた主な賞を中心に、コープさっぽろのこれまでの環境関連の取組による受賞を振り返ります。

北海道の森を元気にしよう！共同キャンペーン

第4回カーボン・オフセット大賞
環境大臣賞

第16回グリーン購入大賞
協働プロジェクト部門優秀賞
（サッポロビール株式会社、北海道と共同）

資源回収

平成26年度循環型社会形成
推進功労者環境大臣表彰
3R活動優良企業

これまでの受賞履歴

2009年	第1回さっぽろ環境賞 循環型社会形成部門 特別賞	環境活動全般
2010年	平成22年度省エネ照明デザインアワード 商業施設部門 優秀事例	西宮の沢店
2010年	日本環境経営大賞 CO_2削減優秀賞	電気使用量削減 宅配BDF
2010年	第2回さっぽろ環境賞 地球温暖化対策部門 札幌市長賞	カーボンフットプリント
2010年	容器包装3R推進環境大臣賞 小売部門 奨励賞	資源回収
2011年	2011年度グッドデザイン賞 商業・産業用途の建築物・空間の部 グッドデザイン賞	西宮の沢店
2011年	第14回オゾン層保護・地球温暖化防止大賞 経済産業大臣賞	西宮の沢店
2011年	第3回さっぽろ環境賞 地球温暖化対策部門 札幌市長賞	西宮の沢店
2013年	第15回グリーン購入大賞 民間団体・学校部門 大賞	環境活動全般
2013年	平成25年度北海道ゼロ・エミ大賞 一般部門 優秀賞	資源回収
2014年	第4回カーボン・オフセット大賞 環境大臣賞	カーボン・オフセット
2014年	第16回グリーン購入大賞 協働プロジェクト部門 優秀賞	カーボン・オフセット
2014年	平成26年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰 3R活動優良企業	資源回収
2014年	平成26年度リデュース・リユース・リサイクル推進者功労者等表彰 リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞	資源回収
2014年	第1回食品産業もったいない大賞 農林水産省食糧産業局長賞	バイオガスプラント

コープさっぽろの組織概要

コープさっぽろは、2014年5月15日に組合員150万人を達成しました。
さらに2015年7月には、創立50周年を迎えます。
全道の組合員の力に支えられ、困難の時も事業を続けてきたコープさっぽろは、
これからも地域社会の期待に一層応え、地域社会を守る事業の継続を目指します。

コープさっぽろの基本姿勢

組合員への「7つのお約束」と社会的責任

お約束 1　つねに、たしかな商品をお届けして組合員さんに「食の安全・安心」と「より豊かなくらし」をお約束します。

お約束 2　いつも組合員さんの「声」を大切に、組合員さんの願いを実現していくことをお約束します。

お約束 3　組合員さんが「くらしの安心」を願い、互いに学び合い、協同することのお手伝いをお約束します。

お約束 4　誠実に事業を進め、つねに経営を公開し、組合員さんの共通の財産を守っていくことをお約束します。

お約束 5　道内の生協と連帯し、道民生活の向上、道内産業の発展に貢献していくことをお約束します。

お約束 6　地球環境を守り、また福祉・助け合いにあふれた地域づくりに貢献していくことをお約束します。

お約束 7　平和で、人間らしい「豊かなくらし」を実現することに貢献していくことをお約束します。

コープさっぽろの環境理念と環境方針

環境理念

コープさっぽろは、組合員への「7つのお約束」を基本にして、
組合員、役職員が共に手を携えて「くらしの安心」と「より豊かなくらし」のために平和を追求し、
人間を尊重し、地球環境を守り、福祉・助け合いにあふれた地域づくりを積極的に推進していきます。
コープさっぽろは、これらの活動が北海道全域に根ざし、北海道民全体が未来に向けて希望に満ちて生きることができるよう、
持続可能な環境保全型の社会づくりをめざします。

環境方針

コープさっぽろは、店舗・宅配システムトドック・共済などの事業を通じ
組合員に安心してご利用いただける安全な商品・サービスを提供し、
北海道全体の豊かなくらしと持続可能な環境保全型の社会づくりに寄与していきます。

①事業における汚染の予防に取り組むとともに、より少ない環境負荷でより大きな価値を生み出せる業務執行を実践します。そのため、中期・短期の環境目的・目標を掲げ、定期的に見直しを進めながら、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。

②環境保全にかかわる法令・条例、並びに協定等受け入れを決めた要求事項を順守します。

③この方針を全役職員に周知徹底し、マネジメントシステムの適用範囲内で一人ひとりが自らの果たすべき役割を自覚して行動します。

④この環境方針を広く公開するとともに、環境活動の全ての取り組みについて定期的に公表します。

- 電力・燃料等のエネルギー資源を効率的に使用し、地球温暖化防止に寄与します。
- 廃棄物の発生抑制と削減に取り組みます。
- 環境に配慮した事務用品の使用に努めます。
- 環境に配慮した商品の開発と普及に取り組みます。
- 業務の中で環境への配慮が積極的に行われる風土づくりに取り組みます。
- 組合員の声に学ぶとともに、地域に対して、環境問題の啓発を進めます。
- 環境保全型の地域社会づくりに取り組みます。

沿革

1965	7月18日創立総会　10月1日創業開始　名称:札幌市民生活協同組合　店舗数2　組合員数1,000人　初年度事業高2億5,600万円
1969	小樽市民生協と統合
1970	旭川市民生協と統合
1973	商品検査室設置
1975	北海道知事より優良組合の表彰を受ける
1977	CO・OP共済(火災、生命)扱いスタート
1978	中央市民生協、函館市民生協と統合
1979	真駒内団地生協と統合
1981	協同購入事業月例配達　店舗遠隔地でスタート
1990	生活協同組合市民生協コープさっぽろへ名称変更
1995	創立30周年 店舗数116　組合員数782千人　事業高1,756億円
1997	「おいしいお店」バージョン店舗改装スタート 協同購入事業での戸配事業スタート
2000	生活協同組合コープさっぽろへ名称変更 全国の生協とともに進めた「食品衛生法改正を求める国会請願」の署名にコープさっぽろ34万筆を提出
2002	道央市民生協との事業提携 「生鮮食品表示自主基準」運用
2003	釧路市民生協との統合、宗谷市民生協との事業提携 全国初、消費者が生産者におくる「コープさっぽろ農業賞」スタート 北海道の「食の安全・安心条例」制定に向けて要望書提出
2004	「加工食品の原料原産地表示自主基準」運用
2005	宗谷市民生協との統合、コープ十勝・コープどうとうとの事業提携
2006	道央市民生協・コープどうとうとの統合　根室支庁に2店舗初出店 協同購入・戸配事業の名称をコープ宅配システムトドックへ名称変更
2007	コープ十勝との統合
2008	コープさっぽろ寄附講座開催(北海学園大学経済学部／酪農学園大学酪農学部　食品流通学科) レジ袋有料化スタート エコセンター始動
2009	志賀綜合食料品店、別海農協、(有)魚長との提携 旭友ストアーからの事業継承 札幌市円山動物園と提携、ホッキョクグマ応援プロジェクト開始 社会福祉基金が公益財団法人認可
2010	カーボンフットプリント表示商品スタート 一時保育トドックルームスタート(ルーシー店) えほんがトドックスタート おびひろ動物園と協定 移動販売車スタート
2010	BDF使用トラックギネス登録パレード ECO・OP西宮の沢店オープン
2011	「黄金そだちシリーズ」の卵、別海牛乳、美瑛豚販売スタート 札幌市と高齢者見守り協定締結 東日本大震災救援物資、支援スタート くらしの広場スタート 配食サービススタート スマートメーター実験スタート フィンランド生協連合会役員来札 札幌市とまちづくりパートナーシップ協定締結 釧路市動物園と協定
2012	全労済、北海道医療生協、ほくろう福祉協会と事業提携 「Cho-co-tto」(ちょこっと)リニューアル 別海乳業興社事業提携 JAみねのぶ店舗オープン 事業所内託児所オープン 畑でレストラン開催 道内52市町村と高齢者見守り協定締結 フリエ 家族葬スタート PB商品発売開始 クッキングスタジオスタート 食育研究会スタート
2013	大雪水資源保全センター事業開始 北海道と包括協定締結 配食サービスで産後食スタート バイオガスプラント・メガソーラー稼働 野口観光株式会社と事業連携協定 旭山動物園と協定締結 エゾシカ肉販売開始 全店にAED設置 藤野店に道の駅風「ご近所やさい藤野農園」開設 江別市と災害時配送協定締結 新POSレジを自前化で導入 アレルゲン商品コーナー化 見守りトドック開始
2014	高齢者見守り協定112市町村と締結 再生エネルギー購入 契約社員の正規化 魚の調理教室開始 電子マネー「ちょこっとカード」導入 北翔大学・NPOと介護予防で連携 電力小売新会社の設立発表 トドックで古着回収事業スタート

開業第1号店の大学村店(札幌市)

「おいしいお店」第1号店の新道店(札幌市)

基本情報

名　　称	生活協同組合コープさっぽろ （生活協同組合市民生協コープさっぽろを2000年に名称変更）
創　　立	1965年（昭和40年）　7月18日　創立総会 10月1日　創業開始
本　　部	札幌市西区発寒11条5丁目10番1号
役員（常勤）	●理事長　大見　英明 ●専務理事　中島　則裕 ●常務理事　岩藤　正和 ●常務理事　会田　彰 （2015年3月現在）
活動エリア	北海道全域（定款）
組合員数	1,543,280名（2015年3月20日） （北海道の世帯数2,709,054世帯）（2014年1月1日） 組合員組織率57.0% （札幌市49.1%、旭川市67.5%、函館市65.5%、石狩市75.4%など）
出資金	636億9,796万円（2015年3月20日現在）
事業高	2,583億2,390万円（合計）（2014年3月21日～2015年3月20日） 1,767億1,764万円（店舗事業） 752億3,175万円（宅配事業） 15億8,061万円（共済事業） 47億9,390万円（その他）
従業者数	正規職員　2,029名 契約職員　876名 パート・アルバイト　9,813名 （2015年3月20日現在）

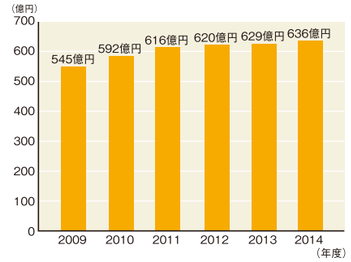
資料 出資金の状況

■年度別出資金動態

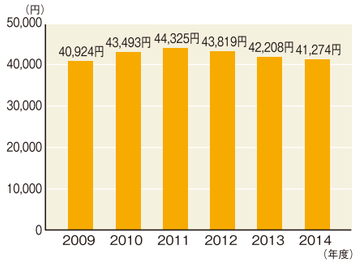
年度＼項目	金額（千円）	前年比増加額（千円）	増加率（%） 対前年比	増加率（%） 2009年度基準
2009	54,504,525	1,863,313	104	100
2010	59,244,286	4,739,761	109	109
2011	61,680,589	2,436,303	104	113
2012	62,015,189	334,600	101	114
2013	62,917,555	902,366	102	115
2014	63,697,955	780,400	101	117

※2008年度4月の定款変更で1組合員の有することができる出資口数の限度が五千口（500万円）となり、出資金の減少となりました。

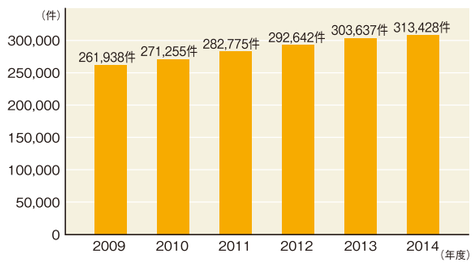
■年度別出資金残高



■1人当たりの平均出資金

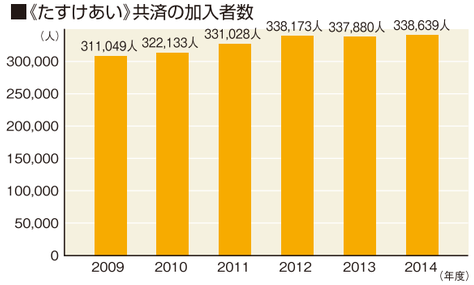


資料 宅配（トドック）の参加状況



資料 CO・OP共済の状況

■《たすけあい》共済の加入者数



組合員動態

都市別組合員組織率

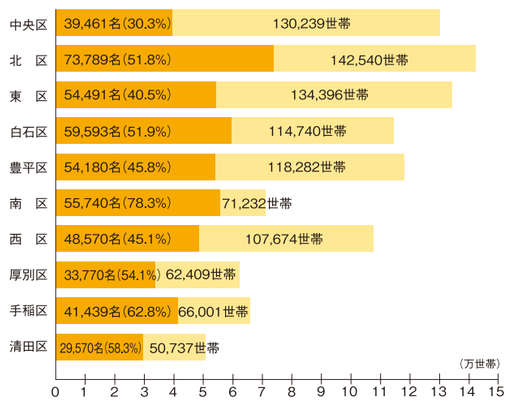
組合員数は2015年3月20日現在の登録で表記しています。
世帯数は2014年1月1日時点の住民基本台帳を使用しています。

■年度別組合員動態

年度＼項目	組合員数（人）	前年比増加数（人）	増加率（%） 対前年比	増加率（%） 2009年度比較
2009	1,331,835	27,989	102	100
2010	1,362,134	30,299	102	102
2011	1,391,552	29,418	102	105
2012	1,415,265	23,713	102	106
2013	1,490,640	75,375	105	112
2014	1,543,280	52,640	104	116

※2009年3月20日、住所不明・未利用者33,182名を法定脱退処理しました。
※2010年3月20日、住所不明・未利用者5,853名を法定脱退処理しました。
※2011年3月20日、住所不明・未利用者1,249名を法定脱退処理しました。
※2013年3月20日、住所不明・未利用者995名を法定脱退処理しました。
※2014年3月20日、住所不明・未利用者696名を法定脱退処理しました。
※2015年3月20日、住所不明・未利用者308名を法定脱退処理しました。

■札幌市行政区別組合員組織率



※札幌市行政区を限定しない組合員さんが2名いらっしゃいます

事業所数と形態

本部

本部	1
地区本部	8（帯広、釧路、北見、苫小牧、室蘭、函館、旭川、札幌）

店舗

109店舗（2015年3月20日現在）28市18町

札幌市	26店舗	留萌市	1店舗	白糠町	1店舗
江別市	2店舗	函館市	9店舗	中標津町	1店舗
北広島市	2店舗	北斗市	1店舗	北見市	3店舗
石狩市	1店舗	苫小牧市	5店舗	網走市	1店舗
千歳市	2店舗	伊達市	1店舗	遠軽町	2店舗
小樽市	3店舗	木古内町	1店舗	美幌町	1店舗
余市町	1店舗	幕別町	1店舗	帯広市	2店舗
倶知安町	1店舗	むかわ町	1店舗	室蘭市	2店舗
岩見沢市	2店舗	白老町	1店舗	赤平市	1店舗
美唄市	1店舗	新ひだか町	1店舗	別海町	1店舗
夕張市	1店舗	浦河町	2店舗	登別市	3店舗
旭川市	8店舗	えりも町	1店舗	恵庭市	1店舗
深川市	1店舗	様似町	1店舗	福島町	1店舗
砂川市	1店舗	釧路市	6店舗	羽幌町	1店舗
滝川市	1店舗	根室市	1店舗		
富良野市	1店舗	釧路町	1店舗		

コープ宅配システムトドックセンター

31センター（2015年3月20日現在）

生産工場

- 江別生鮮加工センター
- 石狩食品工場
- 配食白石工場
- 配食苫小牧工場
- 配食旭川工場
- 配食釧路工場

リサイクル施設

- エコセンター

葬儀場

- フリエホールつきさむ

子会社

- コープフーズ株式会社
- シーズ協同不動産株式会社
- コープ協同不動産株式会社
- シーズ協同開発株式会社
- コープ協同開発株式会社
- 株式会社エネコープ
- コープ協同保険株式会社
- 北海道はまなす食品株式会社
- デュアルカナム株式会社
- 有限会社コープ協同サービス
- 有限会社ドリームファクトリー
- 株式会社道環
- 株式会社大雪水資源保全センター
- 北海道ロジサービス株式会社

’14年度の新店

’14年4月	はぽろ店（羽幌町）

▲はぽろ店（羽幌町）

▲札幌中央センター（’14年10月）

▲しがイースト店（登別市）

第三者意見

小樽商科大学大学院商学研究科
アントレプレナーシップ専攻（専門職大学院）
教授
近藤 公彦氏

「コープさっぽろCSRレポート2015」を一読して印象深いことは、巻頭特集で「コープさっぽろの挑戦」として地域社会と雇用問題への取り組みが紹介されていることに始まり、全体を通してコープさっぽろが北海道に根ざし、地域とともに成長する組織であることを強く意識している点です。

少子高齢化、過疎化、人口減少、雇用といった諸問題について、北海道は日本の10年先の姿であると言われています。北海道が課題先進地と称される所以です。課題先進地と言えば、ネガティブな印象を持たれがちですが、発想を転換してみると、そうした課題を全国に先駆けて解決するビジネスモデルを北海道で築き上げることができれば、北海道は課題解決先進地として全国をリードする位置にあると言えるのです。

こうした北海道の位置を考えるとき、コープさっぽろは地域の課題解決に向けて、「人と食をつなぐ事業の輪」「人と人をつなぐ事業の輪」「人と未来をつなぐ事業の輪」それぞれにおいて、非常に先端的な取り組みをしていると感じます。商品を積んで過疎地を巡る移動販売車「おまかせ便カケル」、離れて住む家族を見守る「見守りトドック」、そしてNPO法人・大学との連携による「地域まるごと元気アッププログラム」などは高齢化や過疎化に向けた活動ですし、一方、えほんがトドックなどの「子育て応援プログラム」は子育てしやすい環境づくりに貢献する活動として、大いに注目されるところです。

唐突ですが、皆さんよくご存じの思想家、二宮尊徳の名言に「道徳なき経済は犯罪であり、経済なき道徳は寝言である」という言葉があります。彼は「経済を回すことなく道徳を唱えても、それは意味がない」と言っているのです。昨今、日本でも定着した感のある、そしてこのレポートのタイトルでもある「企業の社会的責任」とは、古くから伝わるこの「徳」にほかなりません。

コープさっぽろのさまざまな取り組みを見る際に忘れてはならない視点は、コープさっぽろが、そうした取り組みを慈善的な社会貢献事業ではなく、社会事業（ソーシャル・ビジネス）としてとらえ、地域のニーズに応え、雇用を創出し、経済を循環させていること、つまり「徳」をもって事業を行っていることではないでしょうか。それは、コープさっぽろが北海道という地域の社会的存在としての役割を担い、その役割を十分に果たすことを組織の使命としているからこそ、なしうるものであり、それがコープさっぽろの原点であり、また発展型であると思います。

課題先進地としての北海道が課題解決先進地に転化し、北海道が日本のリーディング・エリアとなる未来づくりに向けて、コープさっぽろが社会事業をさらに拡大・進化させ、先端的なビジネスモデルを構築することを通じて、その重要な一翼を担いつづけることを期待してやみません。